

さとひがし



☆自ら学び、心豊かで

たくましい子どもの育成

「み」 自ら学ぶ子

「や」 やさしく思いやる子

「げ」 元気な子

大津市立仰木の里東小学校 学校だより 1月号

令和6年1月10日



2024年 スタート！

令和6年、西暦2024年がスタートしました。昨日は、多くの子どもたちが「おはようございます」「あけましておめでとうございます」「今年もよろしくお願いします」…等、さわやかにあいさつをしながら登校してきました。「新しい年」を迎え、「カー杯がんばろう！」という一人ひとりの力強い思いがひしひしと伝わってきて、とてもうれしい気持ちになりました。

始業式は、全員が体育館に集まり、最初に、能登半島地震でお亡くなりになった皆さんに黙祷を捧げました。その後、目標を立てることの大切さや目標を立てたり、目標

に向かって取り組んでいったりする際のポイント（①チャレンジする姿勢をもつこと②周りの友だちのチャレンジを応援すること③続けること）等について話をしました。式の中では、各学年代表の子どもたちが素晴らしい作文（2学期がんばったことや新年のめあて）を発表していました〈上の写真〉。

また、各教室では、早速「3学期のめあて」を考えたり、カードに書いたりする様子が見られました。お家でも、「子どもたちの今年の目標」について、夕食等の時間にぜひ話題にしてみてください。

私たち自身も「自ら学び、心豊かでたくましい子どもの育成（学校教育目標）」に向け、前向きに、新しいことにチャレンジする姿勢を持って、力強く取組を進めてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



「自分へのありがとう」 自尊感情について考える

3年生の遠藤夏希さんの作文が「ファミリーマート ありがとうの手紙コンテスト」において、関西ブロック・中学年部門最優秀作品に選ばれました。

「自尊感情」について考える道徳の授業を受け、感じたことを作文にされたようです。多くの子どもたちは、友だちのいいところはたくさん見つけることができるのに、自分のいいところにはなかなか気づくことができません。

今回、道徳の授業をとおして、夏希さんがじっくりと自分自身を見つめ、自分のいいところをたくさん見つけることができ、自分自身に「ありがとう」と言えたこと

自分へのありがとう

遠どう 夏き

わたしは今年からしんえんきょうに入りました。しんえんきょうのじゅんぽうで自分を感じようという言葉を知りました。自分を感じようというのは、自分を大切に思う気持ちのことです。それを聞いてわたしは色々なことを考えたことなかつたなと思えました。

先生がピンク色のハートの形をした紙をくばりました。その紙に、自分のいい所を書きました。

さいしはあまり思いうかばなかつたけど、書いていくうちに次々といいい所が出てきました。こんなにわたしのいい所があるなんておどろきました。

わたしはずっと周りの人々ちがうのがいやでした。でも、このじゅんぽうをうけてちがうのがまたいいなと思えました。そして、はじめて自分についてちがいはよくわかってありがとうと思えました。

を、何よりうれしく思います。この作文を読んで、金子みすゞさんの有名な詩「みんなちがってみんないい」を思い出しました。一人ひとりのよさを認め、その違いや多様性を尊重していくことが何より大切であると、改めて考えさせられました。

引き続き、本校では、子どもたちたちが自分自身を大切に思い、「自分自身にありがとう」と言えるような場面をたくさんつくり、「多様性を認め、一人ひとりの人権を尊重する」ことができるような温かい学級づくり・温かい学校づくりを進めてまいります。